

質バイオマス燃焼

6%以上削減

〇九年再生センター（昭島市）における木質系バイオマスと下水汚泥の混合焼却事業である。温室効果ガス削減と省エネルギー化への貢献が期待される二つの取り組みを紹介する。

再生センター（昭島市）における木質系バイオマスと下水汚泥の混合焼却事業である。温室効果ガス削減と省エネルギー化への貢献が期待される二つの取り組みを紹介する。

〇年間の事業期間を予定。ガス化炉と炭化炉は、炉内を低酸素状態にして蒸し焼きにする原理は同じ。燃焼時、可燃性ガスを抽出しながらそのエネルギーの一部を炭化物に残すシステムが炭化炉で、有機物のほとんどを可燃性ガスに変えて利用するシステムがガス化炉である。

一方、木質系バイオマスと下水汚泥の混合焼却事業は、産業労働局がスギ花粉発生源対策の伐採や植木農家の間伐で発生する枝、樹皮、根などの剪定枝を有効利用し、形状・含水率を調整してチップ化。これを、下水道局が都市ガスや重油などの代替燃料として買い取り、処理施設内に受け入れ施設を新設して、既設の汚泥焼却炉へ供給する。カーボンニュートラ

ルである木質系バイオマスを燃料として使うことで、都市ガス使用量を今までの年間約一〇〇万立方mから半分の約五〇万立方mに削減することが可能で、運搬輸送分を含めても〇〇、排出量は年間一〇〇tの削減となる。受け入れ施設の建設は六月半ばに三機工業が五億円で購入。〇九年四月の稼働に向けて、木質バイオマスの買い取り

金額や実施協定など詳細を検討している。木質系バイオマスは汚泥に比べ含水率が低く、汚泥のみの焼却に比べて可燃性ガスの発生量が増える。混合焼却とガス化の二つの技術を組み合わせると、更に処理効率が上がり回収エネルギーの使用可能量が増え、より温室効果ガス削減、省エネルギー化に貢献できるシステムが実現可能だ。

市民など多数参加した記念シンポジウムのもよう

も何らかの宣言がされるはずだが、二〇〇三年にフランスで行われたエビアンサミットでの水の行動計画のようについに単発で終わってしまわないよう政府に強く訴えていると述べ、G8水専門部会の結成を望むことを強調した。

ガス化の仕組み

清瀬水再生センターの汚泥ガス化炉事業（二日に汚泥一〇〇tを処理）は、炉内を低酸素状態の蒸し焼きにすることで温室効果ガスの発生を抑え、一酸化炭素や水素、メタンなどの可燃性ガスを取り出して電気・熱などのエネルギーに活用し、プラント動力や乾燥の熱源に使用する。二〇〇四年に同センターで行った実証実験から試算すると、年間で導入前の約八七〇に当たる一万二五〇〇tのCO₂を削減でき、汚泥ガス化プラント内の消費電力の約五分の一をまかなえることが

「デイスポーターの普及と環境について」単体デイスポーターの普及実験とその後、デイスポーターとエコと題するセミナーが四日、アメリカ大使館商務部と名古屋アメリカ領事館商務部の主催により、富山県魚津市において行われた。セミナーではまず、一

例を改正してデイスポーターを解禁した魚津市で、デイスポーターについての正しい知識や、デイスポーター普及による生活環境や地域財政への貢献などを紹介する目的で行われたもので、魚津市が後援協力を行った。セミナーではまず、一

生ごみ対策と環境改善市民の日常生活における厨房の仕事」の演題で基調講演を行った。大森参与は普及実験結果を基に講演し、厨房作業時間が激減したこと、生ごみ貯留・集積場への生ごみ搬送がなくなったこと、家庭から排出されるごみの量が従来に半分

に削減されたこと、厨房から排出される臭気が消滅したことなど利用者がイドにおける実験結果の

ほかに、下水管のものと送には支障を来さなかつたという下水管への影響、デイスポーター排水

よりの生物処理にはほとんど影響しないとする汚水処理施設への影響などについて解説した。その結果を踏まえ、「市民は合理的な環境管理、廃棄物処理の軽減を目指すべきたが、市民サイドには正しい情報が与えられていない」と結んだ。

この後、デイスポーターによる生ごみ処理の実演、質疑応答が行われたが、デイスポーターについて正しい知識を理解する上で意義の大きいセミナーとなった。

デイスポーターセミナー開催

米大使館 普及実験結果で講演
魚津市で



セミナーのもよう



市民など多数参加した記念シンポジウムのもよう